

認知症に関する活動計画(概要)

福岡県作業療法協会では、保健福祉部に「認知症作業療法推進委員会」を設置し、認知症に関する研修会の開催や「認知症にやさしい図書館」事業などに取り組んでいる。また、県内各地域で行われている認知症に関する活動との連携を進め、作業療法士の専門性を地域の中で活かす機会を広げながら、地域で活躍できる作業療法士の育成や、活動に関わる会員同士のネットワークづくりを推進している。

認知症にやさしい図書館事業

・小さな本棚(認知症関連の推薦図書紹介冊子)の作成

認知症の普及啓発事業の一環として、小冊子「小さな本棚」を作成している。2026年度は【暮らしのサポート編】として5冊を選書し、それぞれに推薦文を掲載している。本編では、認知症のある方やその家族が、日々の暮らしの中で感じる困りごとやつまずきに対して、解決のヒントや生活を支える工夫が紹介されている書籍を中心に上げている。これまでに【本人からのメッセージ編】【家族へのメッセージ編】【こどもたちへのメッセージ編】を作成し、テーマを変えながら継続して発行している。本冊子は、図書館での認知症啓発イベントでの活用をはじめ、図書館や市民センター等への設置・配布を通して、地域住民への認知症に関する普及啓発に活用している。



認知症にやさしい図書館事業

・図書館における啓発事業の開催

北九州市内の図書館において、認知症に関する普及・啓発イベントを開催している。作業療法士による講座をはじめ、地域住民と作業療法士、作業療法学生、高校生との交流会、地元高校生による認知症関連図書の紹介コーナーの設置、図書の紹介や読み聞かせなど、図書館という身近な地域資源を活用した多世代交流に取り組んでいる。世代や立場を越えて認知症についてともに学び、考える機会をつくることで、認知症をより身近なこととして捉えられる地域づくりを目指している。また、こうした活動を北九州市内にとどめず、県内の他市町村にも広げていくことを目指し、各地域との連携を図りながら活動を展開している。



福岡市オレンジパートナーズ 団体登録・活動

福岡オレンジパートナーズとは、認知症の人とその家族、企業、団体、医療・介護・福祉事業者、行政で構成されるコンソーシアムである。本コンソーシアムは、認知症について自主的に「知る」「考える」「つながる」「行動する」ことを目的とし、認知症になっても自分らしく生きるために何ができるかを考え、実際の取り組みにつなげることを目指している。福岡県作業療法協会は団体登録を行っており、各種研修会や意見交換会に参加している。